



● ローカルこそグローバル! (たちばなぐんがについて)

平成20年6月 月曜日、青木のりおは、5回目の議会に立ち、市長、教育長、建設局長、まちづくり局長、経済労働局長にそれぞれ、たちばなぐんがの文化財について、都市計画道路について、地方自治体の少子化対策について義場にて質問しました。



昨年春、29歳の時に川崎市議会の中で一番若い議員として議場に立ち、‘たちばなぐんが’という、元川崎市の中心地であり市役所があった場所の取り組みと今後の活用方法について議論を交しました。1年が経ち、改めて30歳になった今回、5回目の議場で‘たちばなぐんが’について再度議論をしました。

なぜ2度に渡り、若輩ものである私が、こんなローカルな質問をしたかということをお先輩議員や市民の皆様に分かれましたので、まずはその理由からお話します。

私は、ローカルな知識こそ、現在のボーダレスの時代で生き抜くために大切な知識だと考えているからです。日本人が海外で勉強や仕事をする時に、一番困るのは、英語がしゃべれない、書けない、読めないではありません。

一番困るのは、日本の政治、文化、宗教等の話が出来ないことです。クリスマスはキリスト教、葬式は仏教、ニューイヤーは神道など、外国人が日本のライフイベントを見た時に疑問に思うことについて、説明するのに困る人が大勢います。だからこそ、私たちは、日本のことをもっと知る必要があります。

そういう意味で、今回の議論の中心に据えた、川崎の元中心である‘たちばなぐんが’に対する認識は、私たちが川崎で生活する上で大切なことなのです。例えば、7世紀～8世紀は、役所と寺が近くにあり、政治と寺が深く関わっていたことや7世紀あたりでは、それまでは大王だったのが、はじめて天皇が誕生した時期とも重なっていることを読み取ることが出来る。海外で日本人が日本の歴史や文化を説明することの大きな助けになります。外国人とディベートをする際も、そのちょっとしたことを話すことによって、お互いの文化の理解度が上がり、笑える部分が増え、ユーモアがある会話が展開されるはず。今回はそんな観点からの議会質問であり、現在ある歴史の有効活用についての提言であります。

質問事項 (要点のみ記載)

Q1 (青木のりお議員)

‘たちばなぐんが’ 推定地には、奈良・平安時代の橘樹郡の役所跡で、川崎市にとっても最も重要な遺跡のひとつ。市制記念日である7月1日には、たちばな古代の丘緑地(高津区千年)がオープン。今後、史跡の保存を踏まえ、どのように活用していくのか?

A1 (教育長)

たちばな古代の丘緑地を拠点として、県指定の子母口貝塚・西福寺古墳・馬絹古墳などのこれらの地域資源全体を面的、総合的に活用することで、市民の意識の醸成と地域の魅力づくりに寄与してまいりたいと思います。

Q2 (青木のりお議員)

活用方法について、現在は看板のみですが、趣向を凝らすことを考えると、世界的なオープンコンベンなどにして、建築家や建築を勉強している学生など広く活用方法についてアイデアを求め、審査員には、地元の町会長をはじめ有識者。また子どもを育てているお父さん、お母さんなども入って、たくさんのお話をのメディアとも連携をして地域を育てていく。そのためには是非、正倉の復元など形あるものの実現を。

A2 (教育長)

正倉の復元は、歴史学習だけでなく、観光資源としても有効な手法であると考えます。しかしながら、まだ郡衙(ぐんが)の範囲が確実にないことや古代の丘緑地が狭いなどの課題があるので、他都市における史跡整備事例を参考しながら、一層の活用方策について検討してまいります。

Q3 (青木のりお議員)

最後に、‘たちばなぐんが’は高津区にあり、密接に関係のある、薬師如来像の国宝復活運動が盛んな影向寺は宮前区。近年の行政区分けられてしまっていることについて、有効な活用の妨げにならないのか懸念しますが、文化財の総合的な活用の視点で、見解を伺います。

A3 (教育長)

文化財は、市民共有の歴史財産でございますので、総合的に活用してまいります。特に、高津区、宮前区と分断されてしまう‘たいばなぐんが’については、史跡めぐりやウォーキングラリー、エコツアーなど観光的要素も取り入れて地域づくりに貢献してまいります。

ワンポイント評価☆☆

一番に身近な市議会議員としては、地域の活用方法は大切な質問。新たな取り組みについての議論や区行政を跨る事についての課題を指摘したことは有効的。但し、具体的な回答が引き出せなかったことは、今後の課題

今回、使用した資料

川崎市のホームページから資料もあります。取れない場合は、青木まで。

‘たちばなぐんが’について

- ・橘樹郡衙推定地保存活用事業に伴う史跡めぐりの実施について
- ・史跡めぐり 古代の“橘たち 樹ばな”をゆく

http://www.city.kawasaki.jp/press/info20080602_9/item2912.pdf

http://www.city.kawasaki.jp/press/info20080602_9/item2913.pdf

川崎市 ホームページから 組織インデックス → 教育委員会 → 教育委員会事務局生涯学習部文化財課

川崎市インターネット生中継 検索

川崎市議会議員 青木のりお事務所
 〒213-0027
 川崎市高津区野川3895
 TEL 044-788-8899
 FAX 044-788-6440
 E-mail: info@aokinorio.com
 地域の事、ご相談ください

日本では、少子化は大変大きな問題として捉えております。

生産人口の減少による国力の低下や高齢化が進み、制度が持たない現実と直面しているからです。

余談ではありますが、同じような出生率でも、国が違えば問題の捉え方が多少異なります。出生率は、フランス、ドイツ、イタリアでは「低すぎる」と認識しているのに対して、スウェーデン、イギリス、アメリカは満足していると答えています。しかし、前述した様に、日本は少子化を大きな問題として捉え、少子化問題は、**国、地方自治体、企業、地域が連携して社会全体での意識改革に取り組むことが、重要である**としているので、人口が増えている川崎市でも、社会の意識改革という意味では、重要な施策だと思えます。

少子化対策には、子どもが生まれた以降の対策と生まれる前の対策があります。生まれた後